

氏名（本籍）	龜山 千里		
学位の種類	博士（看護科学）		
学位記番号	博甲第	9900	号
学位授与年月	令和 3 年 3 月 25 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	NICU から退院する乳児の児童虐待リスクアセスメント シートの開発と妥当性の検証		
主査	筑波大学教授	博士（医学）	日高 紀久江
副査	筑波大学教授	医学博士	山海 知子
副査	筑波大学准教授	博士（保健学）	涌水 理恵
副査	筑波大学准教授	博士（医学）	根本 清貴

論文の内容の要旨

龜山千里氏の博士学位論文は、NICU（Neonatal Intensive Care Unit; 新生児集中治療室）に入院している乳児の虐待リスクのアセスメントを行い、虐待リスクのある乳児を早期発見するための虐待リスクアセスメントシートを開発しその妥当性の検証を試みたものである。その要旨は以下のとおりである。

本研究は、研究 1 で児童虐待リスクアセスメントシートの開発を行い、研究 2 では児童虐待リスクアセスメントシートの内容妥当性を検証し、研究 3 において信頼性ならびに、虐待リスクを把握できるかどうか、その可能性についての検証を試みている。

研究 1 では、児童虐待のリスクアセスメントシートを構成する虐待リスクの要因を探索するために、インタビュー調査を行っている。インタビュー調査の対象者は、関東圏の総合周産期母子医療センターに勤務する、NICU で過去に虐待事例に携わった経験のある看護師 19 名としている。インタビュー調査では半構造化面接を行い、インタビューの内容を逐語録に起こし、内容分析を行っている。対象者の看護師経験年数は平均 9.8 年、インタビュー時間の平均は 45.3 分であり、児童虐待のリスク要因として 9 のカテゴリー、39 のサブカテゴリーが抽出されている。児童虐待リスクの評価は、NICU 入院 1 週間後と、急性期から脱して新生児用のコットへ移床する時期に行われており、各時期におけるリスク要因は「子どもの特性」、「親の特性」、「家族・社会的サポート」に分類できることを明らかにしている。

研究 2 では、NICU から退院する乳児の児童虐待リスクアセスメントシート試案を ACAP-neo（Assessment of Child Abuse Prevention for Neonatal）と命名し、内容妥当性と表面妥当性の検証を試みている。著者は、NICU に入院している乳児の児童虐待のリスク要因を探索するために、児童虐待に関する先行研究から虐待のリスク要因と考えられる 25 項目を選出している。それらの項目と研究 1 のインタビュー調査の結果を照合し、類似性や共通性の高い項目を調整して、ACAP-neo 試案を作成している。ACAP-neo 試案では、虐待リスクのアセスメントの評価時点を、診療報酬上で退院支援カンファレンスが実施される「入院 1 週間後」と、急性期を脱した後で親の育児参加が始まる「新生児コット移床時」の 2 時点に設定し、「入院 1 週間後」19 項目、「新生児コット移床時」13 項目、全 32 項目から成る虐待リスクアセスメントシート、ACAP-neo を作成している。ACAP-neo は、NICU の看護師が簡易に評価できるよう、構成項目を「あり」、「なし」で評価する 2 件法を採用している。

ACAP-neo の内容妥当性の検証として、新生児医療を専門としている医師、新生児集中ケア認定看護師、NICU の経験を有する看護師の計 10 名を対象に無記名自記式調査を行っている。児童虐待のリスクアセスメント項目としての親和性について 6 件法で回答を求め、全構成項目とも児童虐待リスク要因としての親和性が高いことが確認されている。表面妥当性については、新生児集中ケア認定看護師、NICU の経験を有する看護師の計 10 名を対象に無記名自記式調査を行い、項目内容の不明瞭な箇所や重複している内容がないか、回答時間や項目数の量についての回答を得ている。ACAP-neo の構成項目は父親、母親、祖父母などの複数の対象者を評価することが想定されることから主語を明確にすること、回答に迷うような項目には判断基準を設けるなど、回答者からの意見に基づき、著者は構成項目に加筆、修正を行っている。また、項目内容が重複していると考えられる 2 つの項目を統合したことにより、最終的に「入院 1 週間後」19 項目、「新生児コット移床後」12 項目、全 31 項目に修正を図っている。

研究 3 では、著者は ACAP-neo の信頼性と児童虐待リスクの有無を判別することが可能かどうかについての検証を試みている。信頼性の検証は、NICU で 10 年以上勤務している看護師 13 名が、NICU 退院後に虐待等が発生している 10 事例（被虐待児）と同時期に NICU に入院していた乳児 10 事例（一般児）の計 20 事例を対象に、ACAP-neo を用いて診療録や看護記録等を用いて後方視的に評価した結果に基づき分析を行っている。ACAP-neo の内的一貫性を確認するために、総合得点、入院 1 週間後の得点、そして新生児コット移床時の合計得点別にクロンバックの α 係数を求めている。その結果、総合得点では $\alpha = .98$ 、入院 1 週間後は $\alpha = .97$ 、新生児コット移床後は $\alpha = .97$ であることを確認している。また、評価者信頼性に関しては、合計得点の級内相関係数は $r = .77$ 、入院 1 週間後が $r = .71$ 、そして新生児用コット移床後は $r = .75$ であり、いずれも 0.7 以上の相関が認められたと報告している。一方、児童虐待リスクの有無について判別可能であるか検討するために、上記の看護師 13 名の事例に関する評価の結果に基づき、被虐待児群と一般児群の ACAP-neo の総合得点を Mann-Whitney の U 検定で分析を行い、全評価者の総合得点、入院 1 週間後、そして新生児用コット移床時とも、有意な差があることを確認している。

以上の結果から、信頼性が確保され、NICU での児童虐待リスクを判別できる可能性もあることから、ACAP-neo は NICU に入院している乳児の児童虐待リスクのアセスメントシートとして有用であること示している。著者は、児童虐待に関する先行研究の知見と、児童虐待の事例に実際に携わったことのある看護師の経験知による虐待のリスク要因を構成項目として ACAP-neo の開発に至ったことが、本研究の独自性であると説明している。また、NICU に入院中の乳児の児童虐待リスクを早期に発見し、多職種間で共有することにより虐待予防について早期に対策が検討できることや、退院時には地域の虐待予防支援につながるように ACAP-neo が活用される可能性があることを示唆している。今後は ACAP-neo を全国の NICU に普及するための方策について検討する必要があると述べている。

審査の結果の要旨

（批評）

本研究では、看護師が NICU に入院中に乳児の児童虐待リスクのアセスメントを行い、虐待を発症するリスクがあると考えられる乳児をスクリーニングすることが可能なアセスメントシートを新規に開発することを目的とした研究である。系統的な文献検討と虐待事例に関わった看護師の経験の質的分析によりリスクアセスメントシートを作成し、質問紙調査により信頼性と妥当性の検証を試みている。開発されたアセスメントシートは虐待リスクを判別できる可能性を示しており、新生児期からの虐待予防に関する看護に有用な示唆を提示した。

令和 3 年 1 月 28 日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（看護科学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。